

# 統計データでみる 沖縄の農林水産業



内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課

令和7年10月

# はじめに

この小冊子は、10月18日の「統計の日」にちなんで、当課が毎年開催している「統計データでみる沖縄の農林水産業～「消費者の部屋」特別展示～」において、沖縄県の農林水産業の現状について、分かりやすくグラフ等で紹介するための資料として、最新の農林水産統計調査の結果を用いて作成したものです。

## 10月18日は『統計の日』

～我が国における近代統計の始まり～

我が国最初の近代的統計である「府県物産表」（農林水産物や鉱業生産物の生産高をまとめたもの）に関する太政官布告の公布日が10月18日（明治3年9月24日（太陰暦）が現行の太陽暦では10月18日にあたる。）であることから、国民の統計に対する関心と理解が深まり、国や地方公共団体などが実施する統計調査へより一層の協力が得られることを目的として、10月18日を「統計の日」と定めたものです。

## 利用者のために

1 統計数値は、原則として下表の基準によりラウンド(四捨五入)したため、計と内訳が一致しない場合があります。

原 数	7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (千)	3 桁以下 (百)
ラウンドする桁 (下から)	3 桁	2 桁	2 桁	1 桁	ラウンドしない
例	ラウンドする前の数値	1,234,567	123,456	12,345	1,234
	ラウンドした数値	1,235,000	123,500	12,300	1,230

2 統計表中に使った記号は、次のとおりです。

- 「—」 ..... 事実のないもの
- 「…」 ..... 事実不詳又は調査を欠くもの
- 「0」 ..... 単位に満たないもの
- 「△」 ..... 負数又は減少(下落)したもの
- 「x」 ..... 秘密保護上統計数値を公表しないもの



このマークは、統計法に基づく国の統計調査であることを示し、調査票情報の秘密保護に万全を期すことをお約束するものです。

# 目 次

1	沖縄県の概況	1
2	農家数、基幹的農業従事者数及び経営耕地面積	2
3	耕地面積	3
4	水稻の作付面積及び収穫量	4
5	さとうきびの収穫面積及び収穫量	5
6	野菜の作付面積、収穫量及び出荷量	6
7	パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量	7
8	花き(切り花類)の作付面積及び出荷量	8
9	家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数	9
10	さとうきび生産費	11
11	農業産出額	12
12	青果物の卸売数量及び卸売価格	15
13	生乳及び飲用牛乳等の生産量	16
14	林野面積・林家数及び林業産出額	17
15	海面漁業生産量及び海面漁業産出額	18
16	海面漁業経営体数及び漁船隻数の推移	19
17	農業・農村及び漁業・漁村の6次産業化	20
	付録 沖縄の農林水産業主要指標	21

# 1 沖縄県の概況

## ■面積、人口、総生産等

### 【面 積】

総土地面積	228,211ha
耕地面積	35,900ha
田耕地面積	751ha
林野面積	115,602ha

### 【人口・就業者数】

総 人 口	1,467,480人
男性人口	722,812人
女性人口	744,668人
総就業者数	577,419人
第1次産業就業者数	23,267人
第2次産業就業者数	79,353人
第3次産業就業者数	451,426人
(総就業者数は分類不能産業を含む。)	

### 【世帯数】

総世帯数	614,708世帯
総農家数	14,747戸
林家数	229戸
漁業経営体数	2,658経営体

(漁業経営体数は、事業所を含む。)

### 【総生産(令和4年度)】

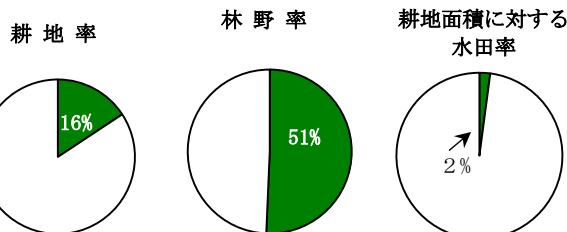
県内総生産	4兆4,615億円
第1次産業	441億円
(農業・林業・水産業)	
第2次産業	5,895億円
(鉱業・製造業・建設業)	
第3次産業	3兆8,586億円
(サービス業等)	

※輸入品に課される税等を算入していないため、計と内訳が一致しません。

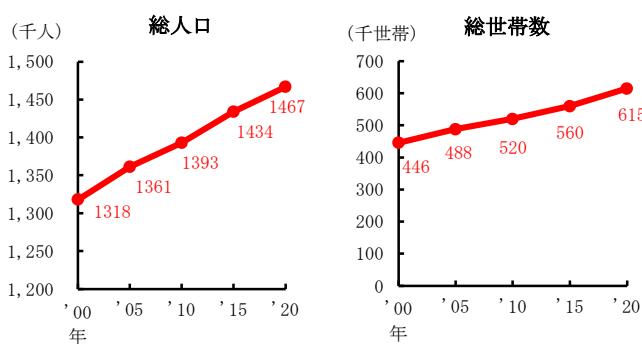
1人当たり県民所得 225万円

1人当たり国民所得 327万円

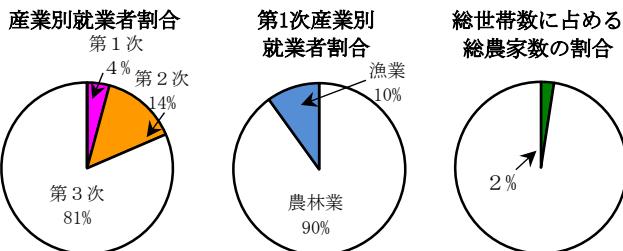
## ■面積



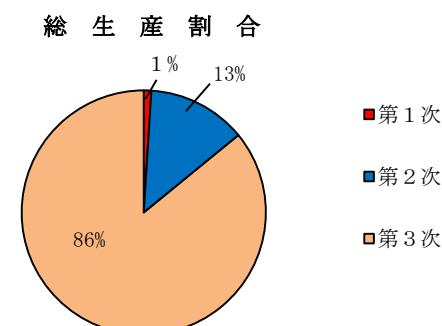
## ■総人口・総世帯数の動き



## ■就業者

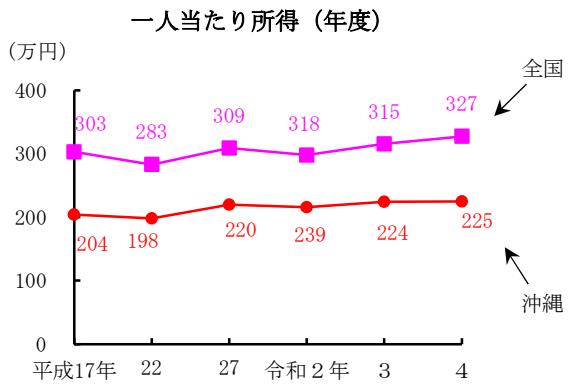


## ■総生産割合



注：単位未満の数値は四捨五入しています。

## ■一人当たり所得



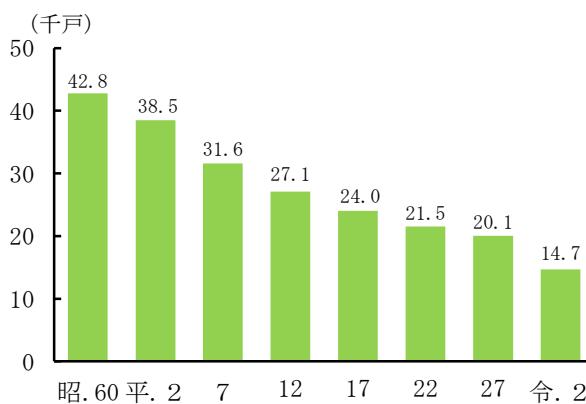
資料： 総土地面積は、国土地理院『令和7年全国都道府県市区町村別面積調』（4月1日時点）。林野面積、総農家数、林家数は、農林水産省大臣官房統計部『2020年農林業センサス』。耕地面積、田耕地面積は、農林水産省大臣官房統計部『令和6年耕地面積調査』。人口、就業者数、世帯数は、総務省統計局『令和2年国勢調査』。漁業経営体数は、農林水産省大臣官房統計部『2023年漁業センサス』。総生産は、内閣府経済社会総合研究所『令和4年度国民経済計算』、沖縄県『令和4年度県民経済計算(県民所得統計)』。

## 2 農家数、基幹的農業従事者数及び経営耕地面積

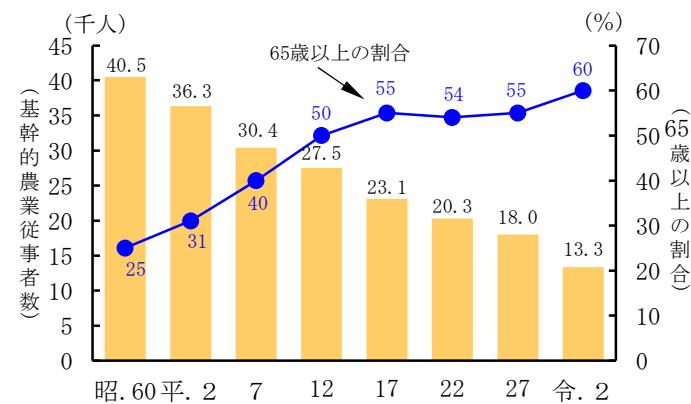
### 1 農家数及び基幹的農業従事者数 — 農家数及び基幹的農業従事者数はともに減少 —

農家数は減少傾向で推移しており、令和2年の農家数は1万4,747戸で、昭和60年の4万2,820戸と比べて約3割となっています。農業生産を担う基幹的農業従事者数も減少傾向で推移しており、令和2年の基幹的農業従事者数は1万3,288人で、昭和60年の4万461人と比べて約3割となっています。また、令和2年の基幹的農業従事者数に占める65歳以上の割合は約6割を占めており、増加傾向で推移しています。

農家数の推移



基幹的農業従事者数の推移



【農家数及び基幹的農業従事者の推移】

単位：戸、人

区分	昭. 60	平. 2	7	12	17	22	27	令. 2
総 農 家 数	42,820	38,512	31,588	27,088	24,014	21,547	20,056	14,747
基幹的農業従事者数	40,461	36,347	30,404	27,532	23,092	20,318	18,017	13,288
うち 65歳以上	10,025	11,446	12,180	13,894	12,611	10,963	9,982	8,035
65歳以上の割合 (%)	25	31	40	50	55	54	55	60

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

注：昭和60年～平成22年は、販売農家の基幹的農業従事者数、平成27年以降は個人経営体の基幹的農業従事者数

### 2 経営耕地面積規模別面積 — 20～30ha規模で増加 —

経営耕地面積は全体的に減少傾向にあります。しかし、20～30ha規模の経営耕地面積は増加傾向にあります。



【経営耕地面積規模別面積の推移】

単位：ha

区分	計	1ha未満	1～5	5～10	10～20	20～30	30～50	50ha以上
平. 22	25,983	4,240	13,256	4,696	2,215	466	465	645
27	24,790	4,074	12,682	4,263	2,313	487	406	563
令. 2	19,475	2,776	9,921	3,643	1,823	556	374	381

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

### 3 耕 地 面 積

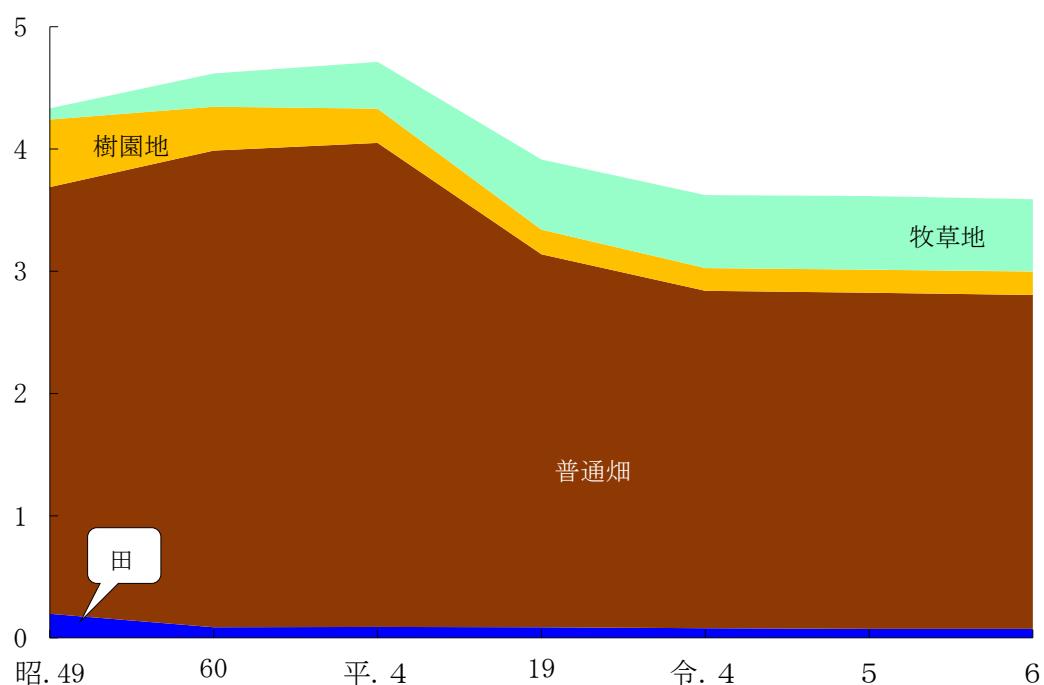
#### — 畑が98%を占める —

耕地面積は、現行調査を開始した昭和49年以降、平成4年の4万7,100haをピークに減少傾向で推移しており、令和6年は3万5,900haで、昭和49年の約83%となっています。このうち畑が3万5,200haで全体の98%を占め、田は751haで全体の2%です。なお、全国計における耕地面積に占める畑の割合は約46%です。

畑種類別では、普通畑が最も多く、樹園地は、パインアップルなどの減少により、令和6年は昭和49年の35%となっています。牧草地は、肉用牛の飼養頭数増加に伴い、令和6年は昭和49年の約6倍の増加となっています。

(万ha)

耕地面積の推移



【耕地面積の推移】

単位 : ha

区分	昭. 49	60	平. 4	19	令. 4	5	6
計	43,400	46,200	47,100	39,100	36,300	36,100	35,900
田	1,980	871	890	879	787	751	751
畑 計	41,400	45,300	46,200	38,200	35,500	35,400	35,200
普通畑	34,900	39,000	39,600	30,500	27,600	27,500	27,300
樹園地	5,520	3,580	2,810	2,020	1,880	1,880	1,940
牧草地	934	2,720	3,820	5,730	5,960	6,000	5,890

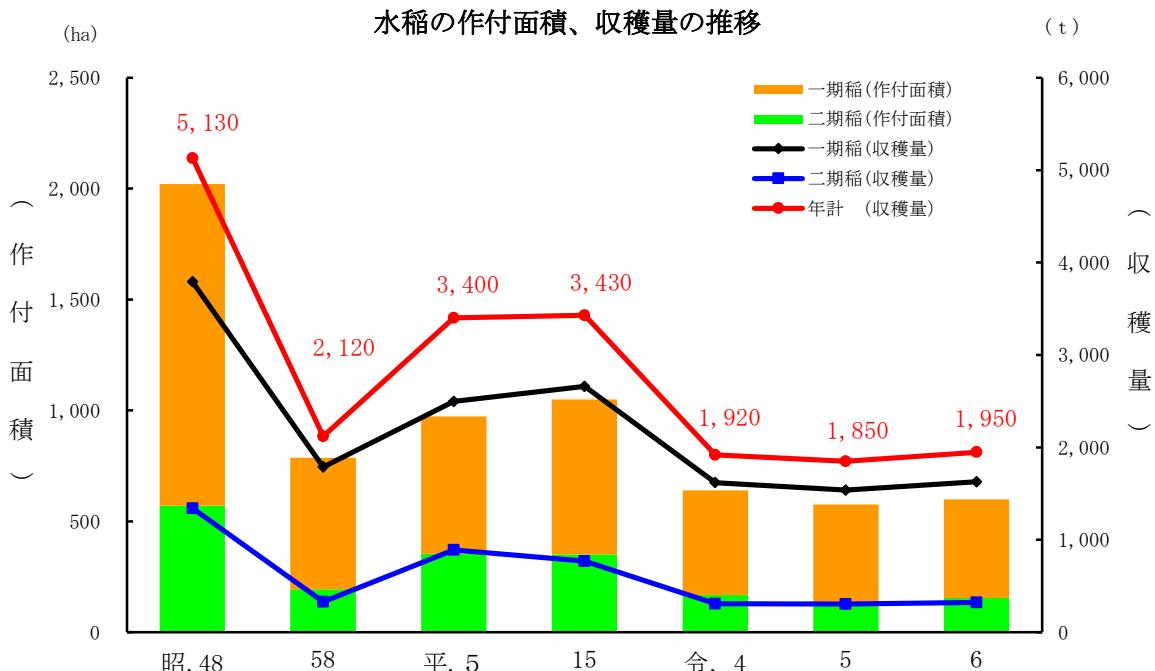
資料：農林水産省大臣官房統計部『耕地面積調査』

## 4 水稲の作付面積及び収穫量

### — 令和 6 年産 作付面積及び収穫量は増加 —

令和 6 年産の水稲作付面積(一期稻・二期稻計)は 599ha で、前年産に比べ 23ha(4%) 増加しました。また、収穫量(一期稻・二期稻計)は 1,950 t で、前年産に比べ 100 t(5%) 増加しました。

生産農家の高齢化に伴う離農等により、復帰後の昭和 48 年産に比べ、作付面積で 1,421ha(70%)、収穫量で 3,180 t(62%) それぞれ減少しています。



【水稲の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量の推移】

単位  $\left\{ \begin{array}{l} \text{作付面積: ha} \\ 10 \text{ a} \text{当たり収量: kg} \\ \text{収穫量: t} \end{array} \right.$

区分	作付面積			10 a 当たり収量			収穫量		
	一期稻	二期稻		一期稻	二期稻		一期稻	二期稻	
昭. 48	2,020	1,450	571	254	262	234	5,130	3,790	1,340
58	786	593	193	270	302	171	2,120	1,790	330
平. 5	973	619	354	349	404	252	3,400	2,500	891
15	1,050	698	351	327	381	219	3,430	2,660	769
令. 4	639	471	168	301	343	184	1,920	1,620	309
5	576	441	135	321	350	227	1,850	1,540	306
6	599	445	154	326	366	210	1,950	1,630	323

資料：農林水産省大臣官房統計部『水稲調査』

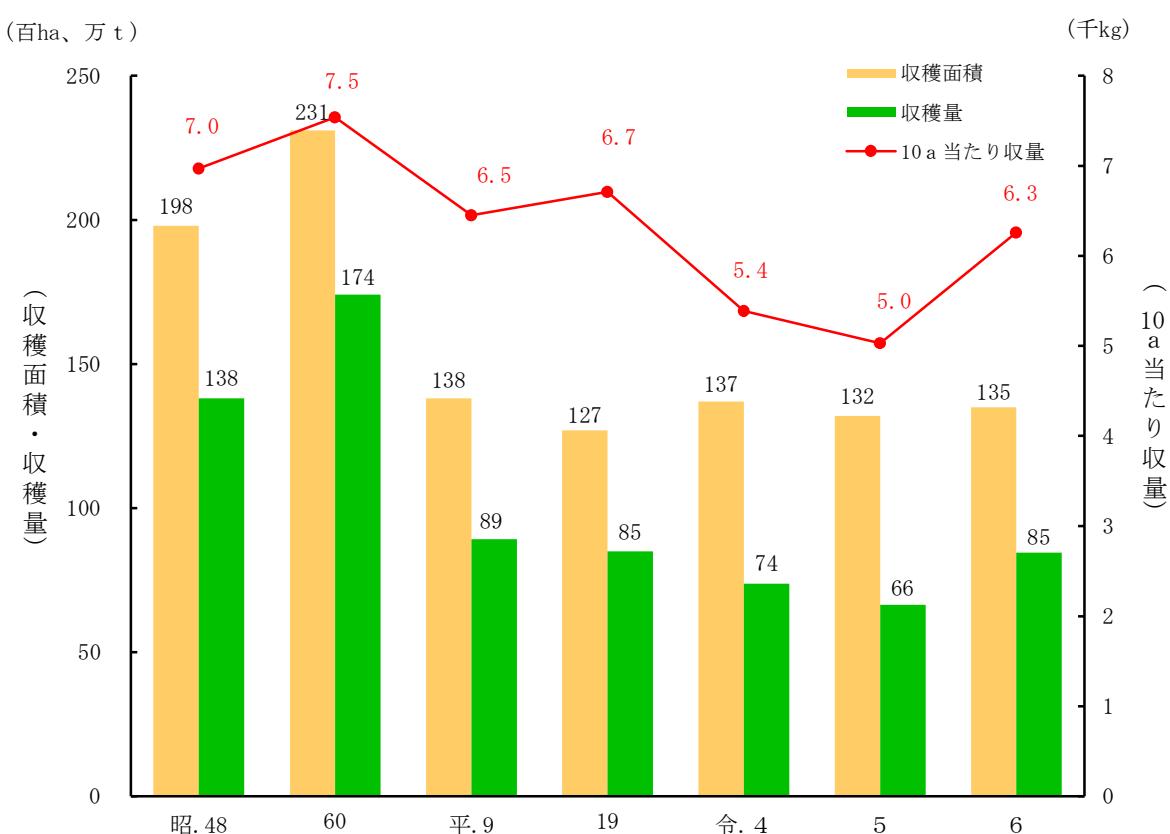
## 5 さとうきびの収穫面積及び収穫量

### — 令和6年産の収穫量は前年産に比べ27%増加 —

さとうきびの収穫面積は、昭和60年産以降、減少傾向で推移しており、令和6年産の収穫面積は1万3,500haで昭和48年産の68%となっています。

また、令和6年産の収穫量は84万5,200tで、前年産に比べ27%増加しました。

さとうきびの収穫面積、10a当たり収量及び収穫量の推移



【さとうきびの収穫面積、10a当たり収量及び収穫量の推移】

単位  $\left\{ \begin{array}{l} \text{収穫面積: ha} \\ \text{10a当たり収量: kg} \\ \text{収穫量: t} \end{array} \right.$

区分	昭. 48	60	平. 9	19	令. 4	5	6
収穫面積	19,800	23,100	13,800	12,700	13,700	13,200	13,500
10a当たり収量	6,970	7,540	6,450	6,710	5,390	5,030	6,260
収穫量	1,380,000	1,741,000	892,600	850,000	737,600	664,400	845,200

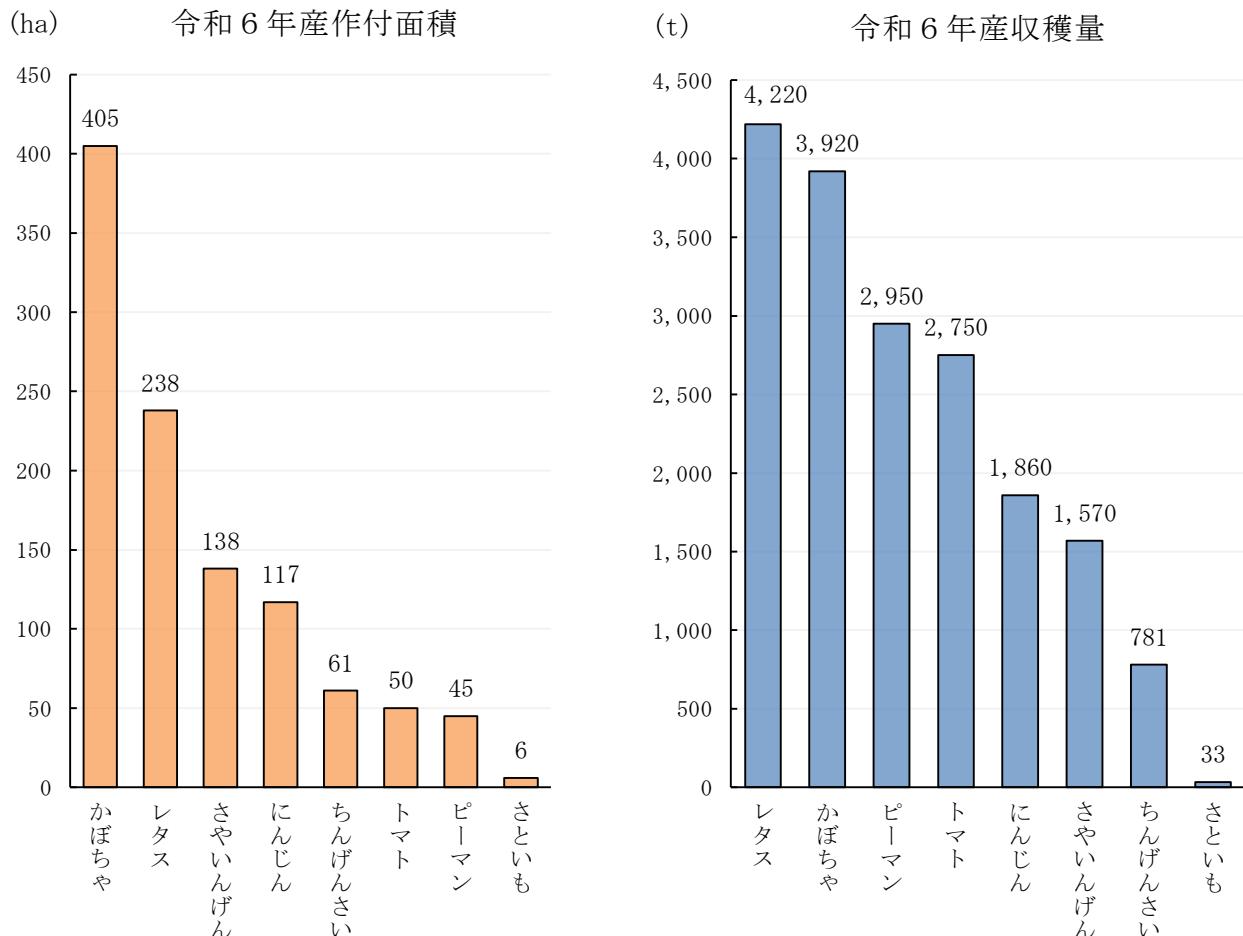
資料：農林水産省大臣官房統計部『作物統計調査（工芸作物）』

注：昭和48年産データは沖縄県農林水産部『さとうきび及び甘しあ糖生産実績』

## 6 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

— 作付面積はかぼちゃが1位、収穫量はレタスが1位 —

令和6年産野菜の作付面積<sup>(注)</sup>は、かぼちゃが1位で405ha、次いでレタス238ha、さやいんげん138haとなっています。また、収穫量はレタスが1位で4,220t、次いでかぼちゃ3,920t、ピーマン2,950tとなっています。



### 【令和6年産調査野菜の作付面積、収穫量及び出荷量（概数）】

品目	作付面積	収穫量	出荷量	品目	作付面積	収穫量	出荷量
	ha	t	t		ha	t	t
にんじん	117	1,860	1,560	トマト	50	2,750	2,500
さといも	6	33	29	うち、ミニトマト	14	536	500
ちんげんさい	61	781	658	ピーマン	45	2,950	2,620
レタス	238	4,220	3,650	うち、しとう	1	17	15
うち、サラダ菜	6	56	50	さやいんげん	138	1,570	1,440
かぼちゃ	405	3,920	3,490				

資料：農林水産省大臣官房統計部『野菜生産出荷統計』

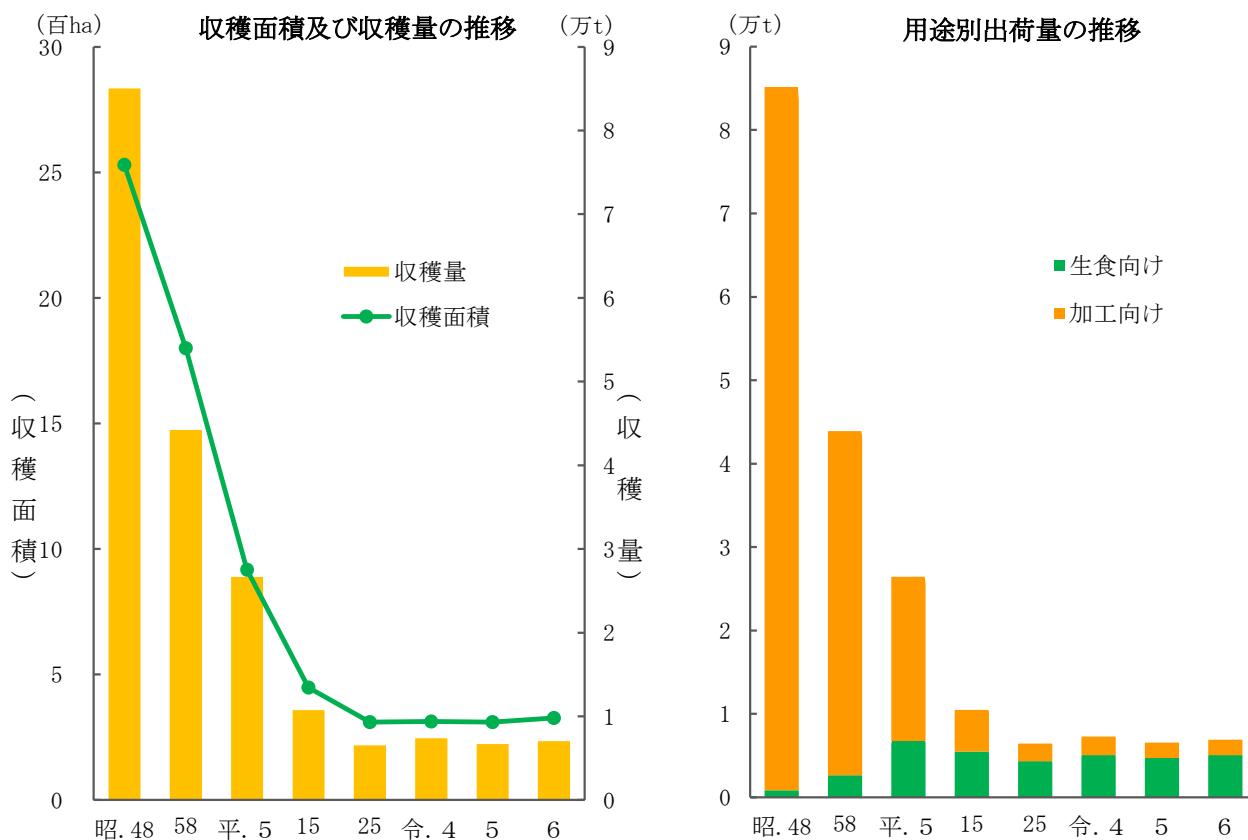
注：調査品目は、指定野菜及び指定野菜に準ずる野菜のうち、全国において沖縄県が主産県となっている品目であり、沖縄県内において作付けされている全ての品目を調査対象としたものではありません。

## 7 パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量

### — 令和6年産の収穫量及び出荷量とも前年産より5%増加 —

パインアップルについては、復帰後は昭和48年産をピークに、安い外国産パインアップルの輸入増加やパインアップル缶詰の輸入自由化を背景に生産農家数の減少等により収穫面積及び収穫量とも減少傾向で推移してきました。このような中、生食向けを中心に作付けの拡大を図ったこと等により、近年は横ばいで推移しています。

令和6年産の収穫面積は327ha、収穫量は7,100tで、前年産に比べ350t(5%)増加しました。また、出荷量は6,890tで、前年産に比べ340t(5%)増加しました。用途別では、生食向けが5,080t、加工向けが1,810tとなっています。



【パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量の推移】

単位  $\left\{ \begin{array}{l} \text{収穫面積: ha} \\ \text{収穫量・出荷量: t} \end{array} \right.$

区分	昭. 48年産	58	平. 5	15	25	令. 4	5	6
収穫面積	2,530	1,800	917	448	311	313	311	327
収穫量	85,100	44,300	26,700	10,800	6,590	7,420	6,750	7,100
出荷量	85,100	43,900	26,500	10,500	6,410	7,270	6,550	6,890
うち生食向け		2,600	6,730	5,500	4,310	5,020	4,690	5,080
うち加工向け	84,300	41,300	19,700	4,960	2,100	2,250	1,860	1,810

資料：農林水産省大臣官房統計部『果樹生産出荷統計』

注：令. 6年は概数値。昭和48年産の収穫面積は、便宜上、12月現在における植え付け後2年以上の栽培面積を計上。

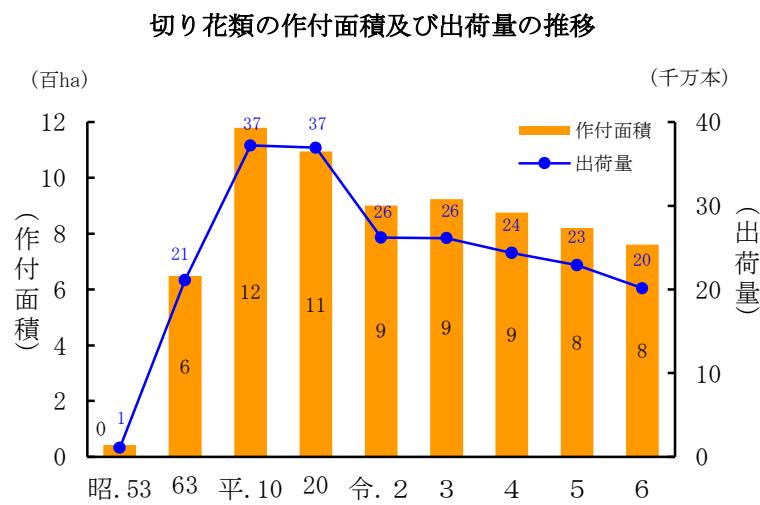
## 8 花き(切り花類)の作付面積及び出荷量

### — 令和6年産花き(切り花類)の作付面積及び出荷量は前年より減少 —

#### ① 切り花類

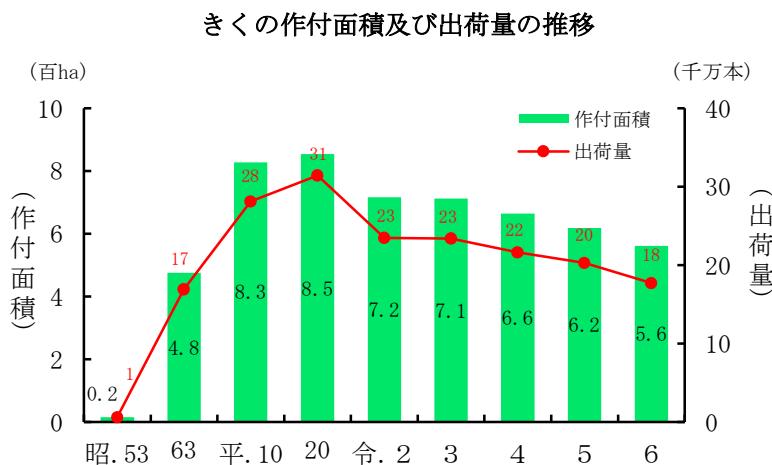
切り花類の作付面積は、近年減少傾向で推移しています。令和6年産は760haで、前年産に比べ60ha(7%)減少しています。

また、令和6年産の出荷量は2億140万本で、前年産に比べ約12%減少となっています。



#### ② きく

きくの作付面積は、近年減少傾向で推移しています。令和6年産の作付面積は561haで前年産に比べ57ha(9%)減少し、出荷量は1億7,730万本で、前年産に比べ約13%減少となっています。



#### 【花き(切り花類)の作付面積及び出荷量の推移】

区分	切り花類計		きく		洋ラン類		その他の切り花	
	作付面積(a)	出荷量(千本)	作付面積(a)	出荷量(千本)	作付面積(a)	出荷量(千本)	作付面積(a)	出荷量(千本)
昭. 53	4,200	10,942	1,500	6,060	-	-	2,700	4,882
63	64,800	211,000	47,600	169,300	2,800	4,230	14,400	37,470
平. 10	118,000	372,100	82,800	281,400	4,900	6,600	30,300	84,100
20	109,400	369,500	85,400	314,500	2,640	2,730	21,360	52,270
令. 2	90,100	262,200	71,600	234,800	1,350	1,210	17,150	26,190
3	92,400	261,500	71,200	234,200	...	...	21,200	27,300
4	87,500	243,700	66,400	216,500	...	...	21,100	27,200
5	82,000	229,000	61,800	202,700	...	...	20,200	26,300
6	76,000	201,400	56,100	177,300	...	...	19,900	24,100

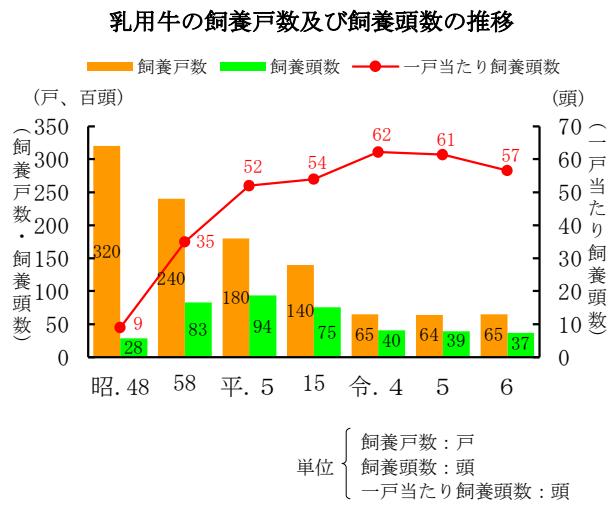
資料：農林水産省大臣官房統計部『花き生産出荷統計』

注：令和3年産から洋ラン類は調査対象外となつたため、その他の切り花に含まれている。

# 9 家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数

## 1 乳用牛 — 飼養戸数は増加、飼養頭数は減少 —

令和6年の乳用牛の飼養戸数は65戸で、前年に比べ1戸(2%)増加、昭和48年と比べ255戸(80%)減少しています。また、飼養頭数は3,680頭で、前年に比べ250頭(6%)減少、昭和48年と比べ840頭(30%)増加しています。さらに、一戸当たりの飼養頭数は57頭で、昭和48年の約6倍に増加しており、大規模化が進んでいます。



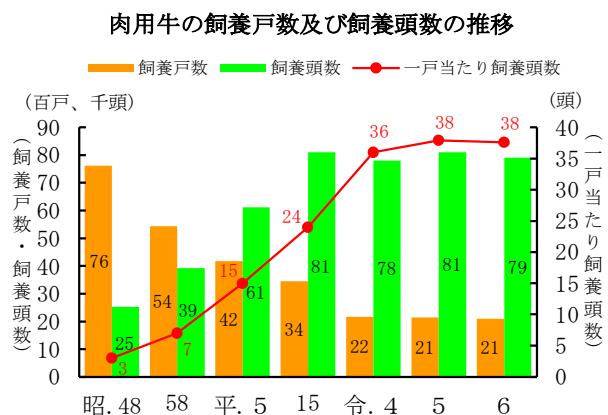
### 【乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区分	昭. 48	58	平. 5	15	令. 4	5	6
飼養戸数	320	240	180	140	65	64	65
飼養頭数	2,840	8,280	9,350	7,530	4,040	3,930	3,680
一戸当たり飼養頭数	9	35	52	54	62	61	57

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

## 2 肉用牛 — 飼養戸数及び飼養頭数が減少 —

令和6年の肉用牛の飼養戸数は2,100戸で、前年に比べ40戸(2%)減少、昭和48年と比べ5,520戸(72%)減少しています。また、飼養頭数は7万9,000頭で前年に比べ2,000頭(2%)減少、昭和48年と比べ5万3,800頭(313%)増加しています。さらに、一戸当たりの飼養頭数は38頭で、昭和48年の約13倍に増加しており、大規模化が進んでいます。



### 【肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

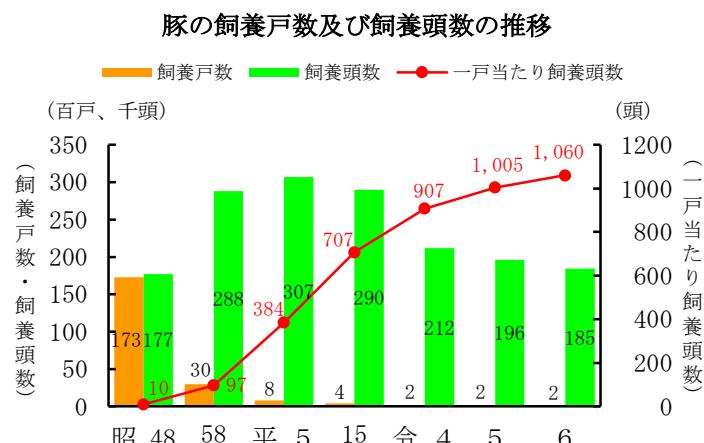
区分	昭. 48	58	平. 5	15	令. 4	5	6
飼養戸数	7,620	5,440	4,170	3,440	2,170	2,140	2,100
飼養頭数	25,200	39,200	61,200	81,000	78,000	81,000	79,000
肉用種	...	38,300	59,800	80,300	77,500	80,500	78,300
子取り用 めす牛	...	...	...	...	44,700	45,200	44,200
肥育用牛	...	...	14,500	5,670	5,980	6,100	6,650
育成牛	...	...	...	...	26,800	29,200	27,500
※ 乳用種	150	890	1,370	660	460	520	680
一戸当たり飼養頭数	3	7	15	24	36	38	38

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

※ホルスタイン種等の乳用種のうち、肉用を目的として飼育している牛をいう。

### 3 豚 – 飼養戸数及び飼養頭数が減少、大規模化が進む –

令和6年の豚の飼養戸数は174戸で、前年に比べ21戸(11%)減少、昭和48年と比べ1万7,126戸(99%)減少しています。また、飼養頭数は18万4,500頭で、前年に比べ1万1,400頭(6%)減少、昭和48年と比べ7,500頭(4%)増加しています。さらに一戸当たり飼養頭数は1,060頭で、昭和48年の約106倍に増加しており、大規模化が進んでいます。



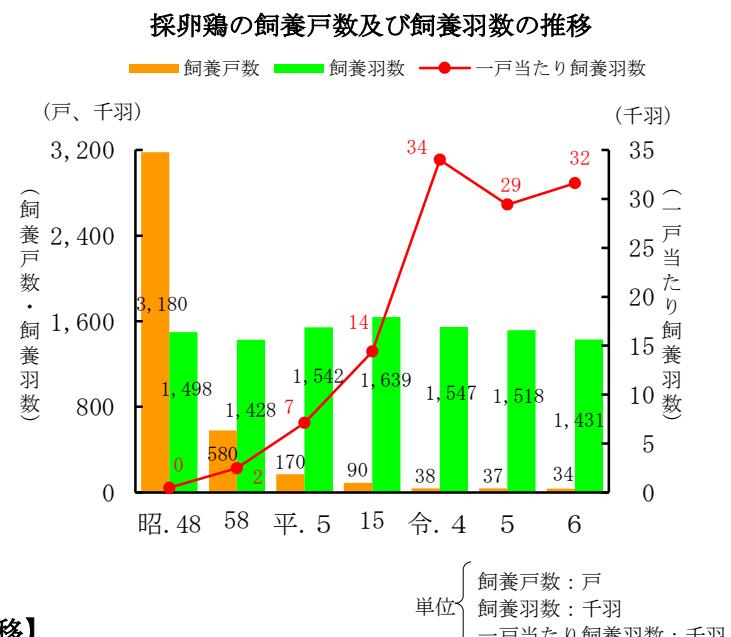
#### 【豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区分	昭. 48	58	平. 5	15	令. 4	5	6
飼養戸数	17,300	2,970	800	410	219	195	174
飼養頭数	177,000	287,900	307,000	289,700	211,700	195,900	184,500
一戸当たり飼養頭数	10	97	384	707	907	1,005	1,060

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

### 4 採卵鶏 – 飼養戸数及び飼養羽数が減少、大規模化が進む –

令和6年の採卵鶏の飼養戸数(種鶏のみの飼養者及び成鶏めす1,000羽未満の者は除く。)は34戸で、前年に比べ3戸(8%)減少、昭和48年と比べ3,146戸(99%)減少しています。また、飼養羽数(種鶏を除く。)は143万1,000羽で、前年に比べ8万7,000羽(6%)減少、昭和48年と比べ6万7,000羽(4%)減少しています。さらに、一戸当たり飼養羽数は3万1,600羽で、昭和48年と比べると増加しており、大規模化が進んでいます。



#### 【採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移】

区分	昭. 48	58	平. 5	15	令. 4	5	6
飼養戸数	3,180	580	170	90	38	37	34
飼養羽数	1,498	1,428	1,542	1,639	1,547	1,518	1,431
一戸当たり飼養羽数	0	2	7	14	34	37	32

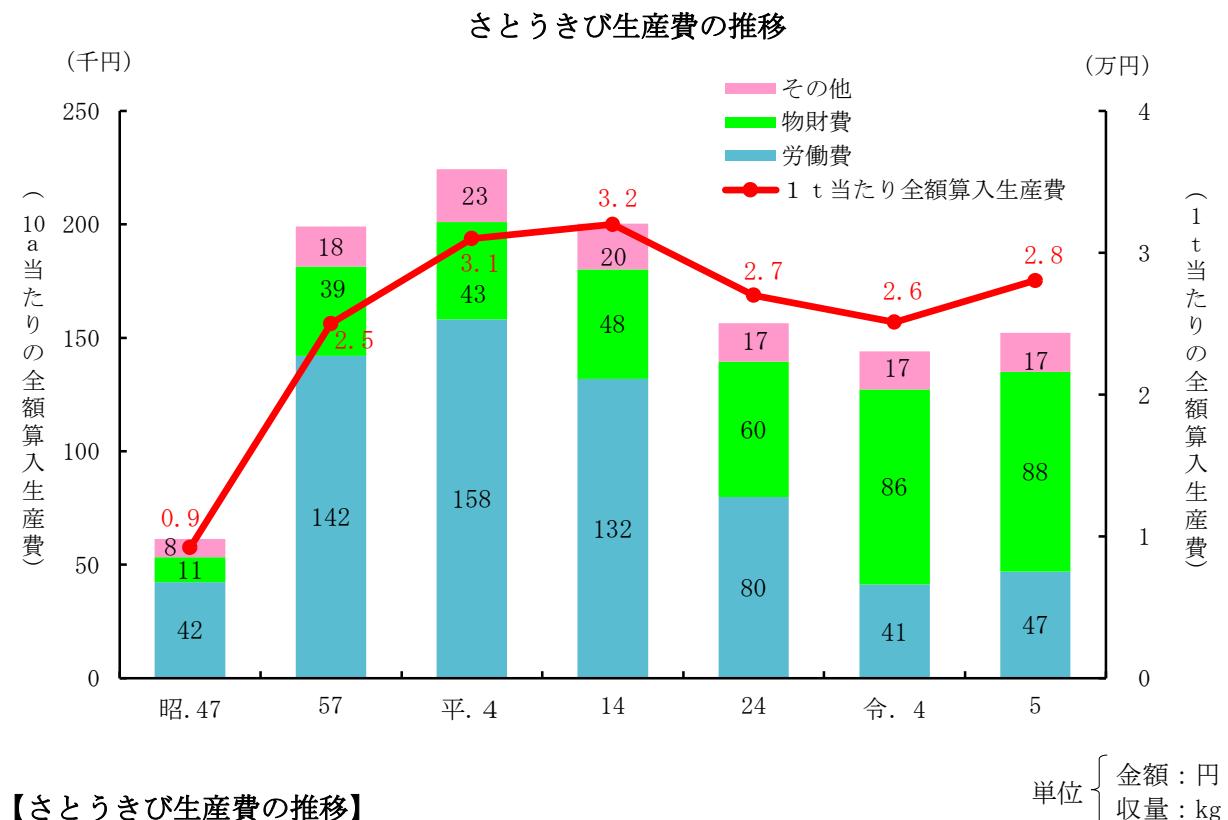
資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

注：平成5年は成鶏めす羽数300羽未満の飼養者を除く、平成15年以降は1,000羽未満を除く、昭和58年以前は全数調査。

# 10 さとうきび生産費

## — 令和5年産は前年産に比べ増加(10a当たり) —

令和5年産さとうきびの10 a 当たり生産費(全額算入生産費)は15万2,262円で、前年産に比べ8,304円(5.8%)増加しています。1 t当たりの生産費(全額算入生産費)は2万8,042円で、前年産に比べ2,938円(11.7%)増加しています。



区分		昭. 47	57	平. 4	14	24	令. 4	5
10a当たり	資本利子・地代全額算入生産費	61,378	198,979	224,244	200,327	156,481	143,958	152,262
	支払利子・地代算入生産費	53,377	181,458	202,973	183,644	144,263	133,377	141,841
	生産費(副産物価額差引)	53,377	181,458	201,005	180,165	139,614	127,303	135,214
	労 働 費	42,334	142,102	158,184	131,917	79,993	41,290	47,235
	物 財 費	11,043	39,356	42,821	48,248	59,621	86,022	87,985
1t当たり	収 量	6,661	7,994	7,312	6,329	5,695	5,735	5,430
	資本利子・地代全額算入生産費	9,216	24,893	30,667	31,653	27,473	25,104	28,042
	支払利子・地代算入生産費	8,015	22,701	27,758	29,017	25,328	23,260	26,123
	生産費(副産物価額差引)	8,015	22,701	27,488	28,467	24,511	22,200	24,902
	労 働 費	6,356	17,777	21,633	20,844	14,044	7,200	8,699
	物 財 費	1,659	4,924	5,855	7,623	10,467	15,002	16,204

資料：農林水産省大臣官房統計部『農業経営統計調査 さとうきび生産費統計』

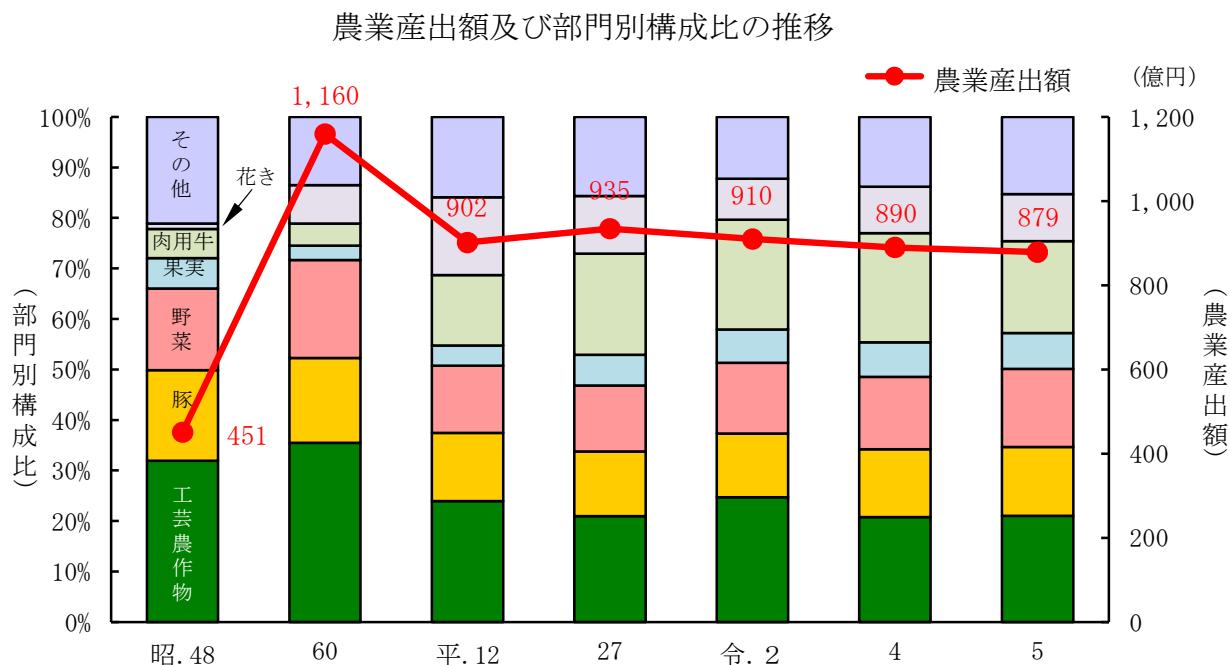
# 11 農業産出額

## 1 農業産出額 – 工芸農作物の構成比は縮小、肉用牛は拡大の傾向 –

令和5年農業産出額は879億円で、前年に比べ11億円（1.2%）減少し、全国35位となりました。これは、肉用牛が32億円（16.7%）減少したためです。

また、部門別では、耕種部門は486億円で、前年に比べ9億円（1.9%）増加しました。畜産部門は393億円で、前年に比べて19億円（4.6%）の減少となりました。

さらに、部門別構成割合は、工芸農作物21.0%（うち、さとうきびが18.9%）が最も高く、次に、肉用牛が18.2%、野菜が15.5%と続いています。



【農業産出額及び構成比の推移】

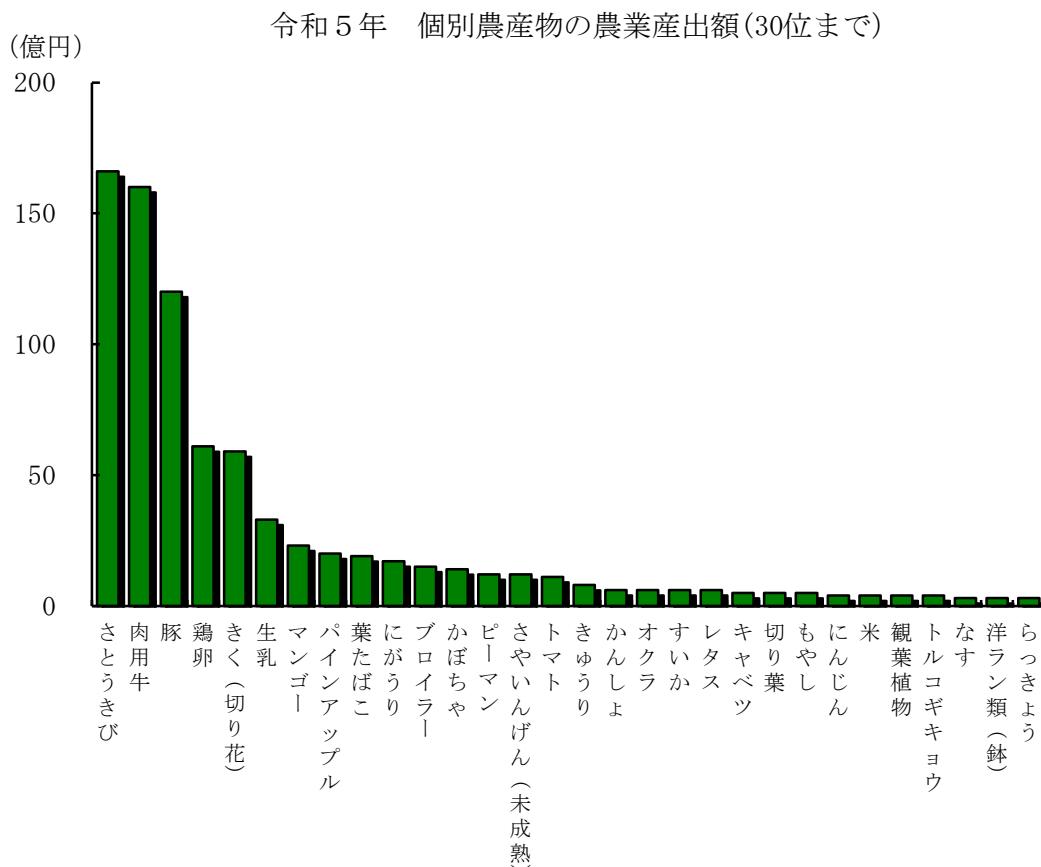
単位：億円、（ ）は%

区分	昭. 48	60	平. 12	27	令. 2	4	5
農業産出額	451 (100)	1,160 (100)	902 (100)	935 (100)	910 (100)	890 (100)	879 (100)
耕種部門	280 (62)	795 (69)	542 (60)	508 (54)	512 (56)	477 (54)	486 (55)
野菜	73 (16)	225 (19)	120 (13)	122 (13)	127 (14)	127 (14)	136 (15)
果実	27 (6)	33 (3)	36 (4)	57 (6)	60 (7)	61 (7)	62 (7)
花き	5 (1)	89 (8)	139 (15)	107 (11)	74 (8)	82 (9)	82 (9)
工芸農作物	144 (32)	412 (36)	216 (24)	196 (21)	225 (25)	185 (21)	185 (21)
うちさとうきび	138 (31)	374 (32)	166 (18)	162 (17)	187 (21)	166 (19)	166 (19)
畜産部門	171 (38)	362 (31)	360 (40)	426 (46)	397 (44)	412 (46)	393 (45)
肉用牛	26 (6)	50 (4)	126 (14)	187 (20)	198 (22)	192 (22)	160 (18)
豚	81 (18)	195 (17)	122 (14)	120 (13)	115 (13)	120 (13)	120 (14)

資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

## 2 個別農産物の農業産出額 – 上位10品目で約8割を占める –

個別農産物別では、さとうきび166億円、次いで肉用牛160億円、豚120億円、鶏卵61億円、きく59億円の順となっています。上位10品目で農業産出額全体の約8割を占めています。



### 【令和5年個別農産物の順位と農業産出額】

単位：億円

順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額
1 (1)	さとうきび	166	11 (6)	ブロイラー	15	21 (7)	キャベツ	5
2 (4)	肉用牛	160	12 (28)	かぼちゃ	14	22 ...	切り葉	5
3 (2)	豚	120	13 (49)	ピーマン	12	23 ...	もやし	5
4 (3)	鶏卵	61	14 ...	さやいんげん	12	24 (10)	にんじん	4
5 ...	きく (切り花)	59	15 ...	トマト	11	25 (9)	米	4
6 (16)	生乳	33	16 (12)	きゅうり	8	26 (36)	観葉植物	4
7 ...	マンゴー	23	17 (14)	かんしょ	6	27 ...	トルコギキョウ	4
8 (5)	パインアップル	20	18 ...	オクラ	6	28 (33)	なす	3
9 (13)	葉たばこ	19	19 (22)	すいか	6	29 ...	洋ラン類 (鉢)	3
10 (11)	にがうり	17	20 (24)	レタス	6	30 ...	らっきょう	3

資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

注：( )書きは昭和48年の順位です。

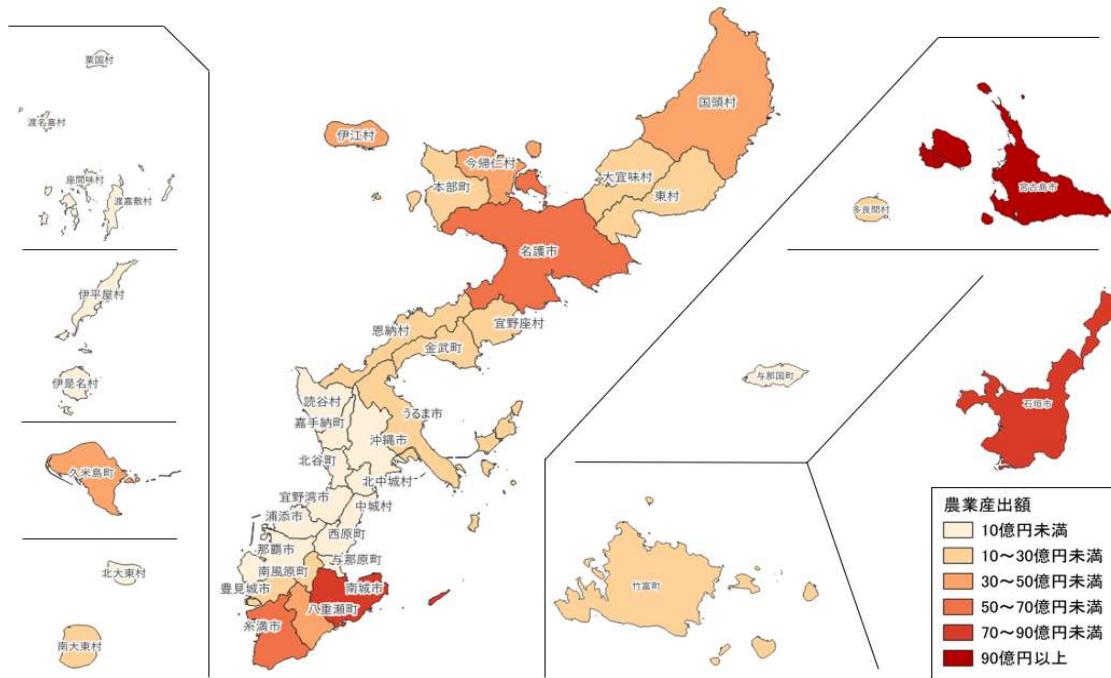
### 3 市町村別農業産出額 – 宮古島市が1位 –

令和5年の市町村別農業産出額は、宮古島市が144億円で県内1位、最も農業産出額が多い部門が工芸農作物で87億円となりました。

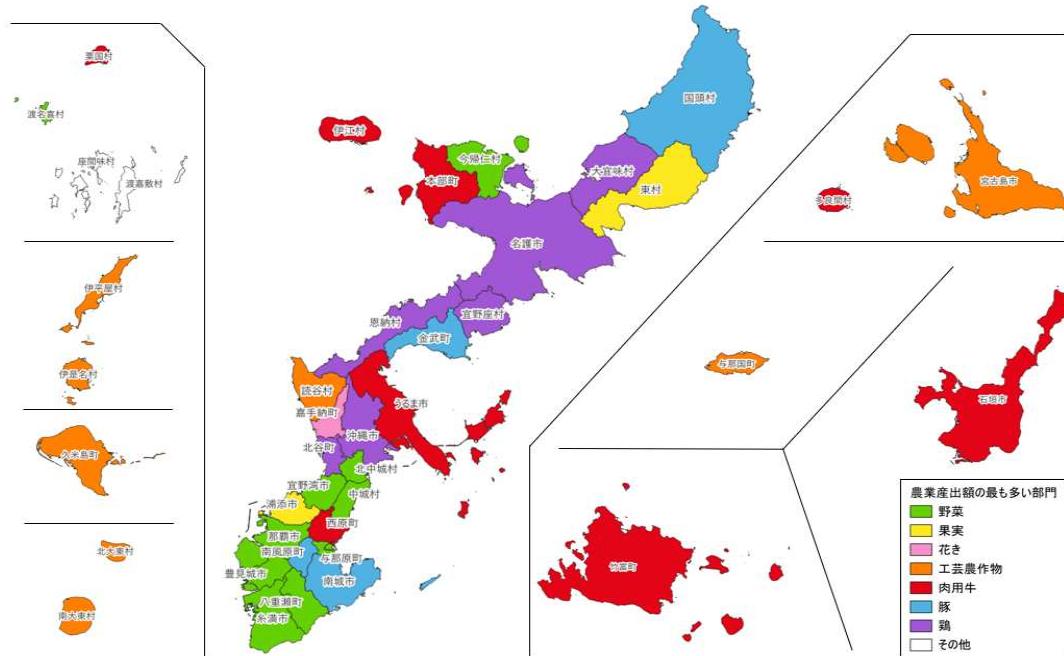
次いで、南城市が84億円で県内2位、最も農業産出額が多い部門が豚で35億円となりました。さらに、石垣市が75億円で県内3位、最も農業産出額が多い部門が肉用牛で45億円となりました。

順位	市町村	農業産出額	
		1位部門	1部門の産出額
1	宮古島市	144	工芸農作物 87
2	南城市	84	豚 35
3	石垣市	75	肉用牛 45
4	名護市	66	鶏 27
5	糸満市	54	野菜 17
6	今帰仁村	39	野菜 13
7	八重瀬町	36	野菜 11
8	国頭村	33	豚 23
9	久米島町	32	工芸農作物 15
10	伊江村	31	肉用牛 14

#### 【市町村別農業産出額（令和5年）】



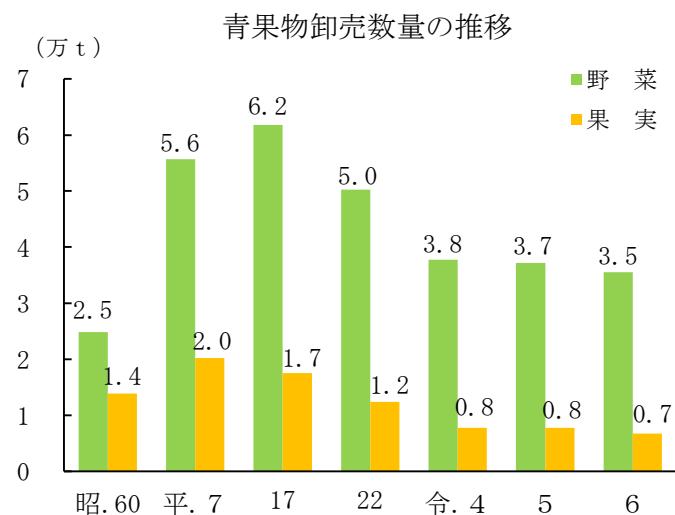
#### 【農業産出額の最も多い部門（令和5年）】



## 12 青果物の卸売数量及び卸売価格

### 1 卸売数量 ー 野菜、果物ともに近年は減少傾向 ー

沖縄県中央卸売市場における令和6年の野菜の卸売数量は3万5,460tで、前年に比べ1,732t(4.7%)減少、果実の卸売数量は6,711tで、前年に比べ1,075t(13.8%)減少となっています。



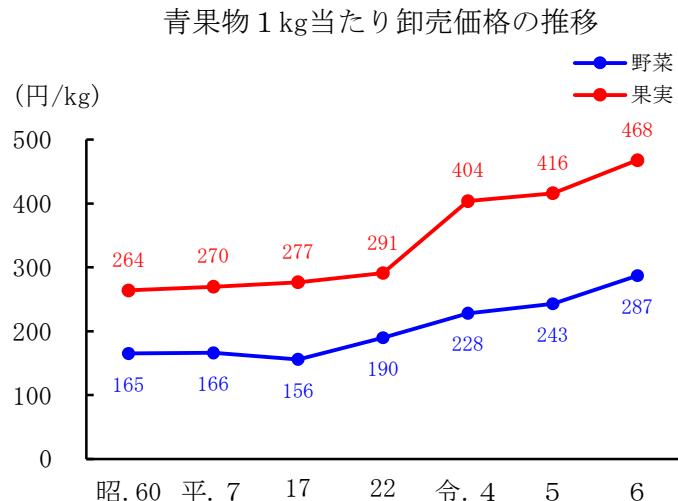
#### 【卸売数量の推移】

区分	昭. 60	平. 7	17	22	令. 4	5	6
野菜	24,850	55,656	61,787	50,267	37,754	37,192	35,460
果実	13,891	20,191	17,485	12,364	7,794	7,786	6,711

資料：農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注：令. 6年は概数値

### 2 卸売価格 ー前年に比べ野菜は約18%上昇、果樹は約13%上昇ー

令和6年の野菜の1kg当たり卸売価格は287円で前年に比べ44円(18%)上昇し、昭和60年の165円と比べると122円(74%)上昇しました。また、令和6年の果実の1kg当たり卸売価格は468円で前年に比べ52円(13%)上昇し、昭和60年の264円と比べると204円(77%)上昇しました。



#### 【卸売価格の推移】

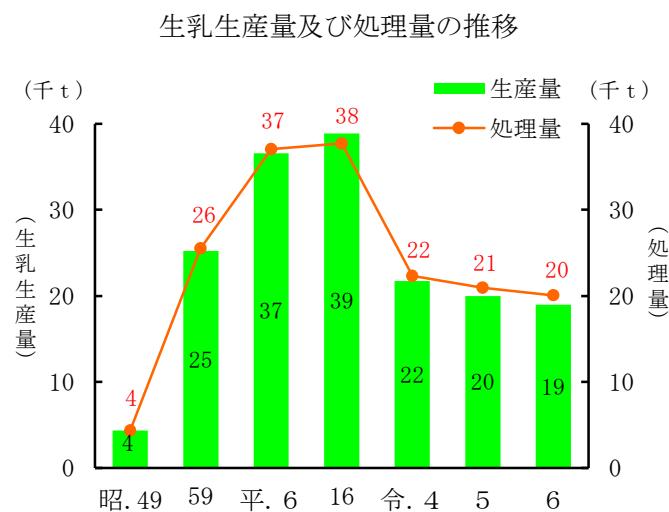
区分	昭. 60	平. 7	17	22	令. 4	5	6
野菜	165	166	156	190	228	243	287
果実	264	270	277	291	404	416	468

資料：農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注：令. 6年は概数値

# 13 生乳及び飲用牛乳等の生産量

## 1 生乳の生産量及び処理量 － 近年は同水準で推移 －

令和6年の沖縄県の生乳生産量は1万8,971tで、前年に比べ1,040t(5.2%)減少となっています。また、生乳処理量は2万88tで、前年に比べ852t(4.1%)減少しました。これを用途別にみると、牛乳等向けが1万9,964tで、処理量のほとんどを占めており、前年に比べ834t(4.0%)減少となっています。



### 【生乳の生産量及び処理量の推移】

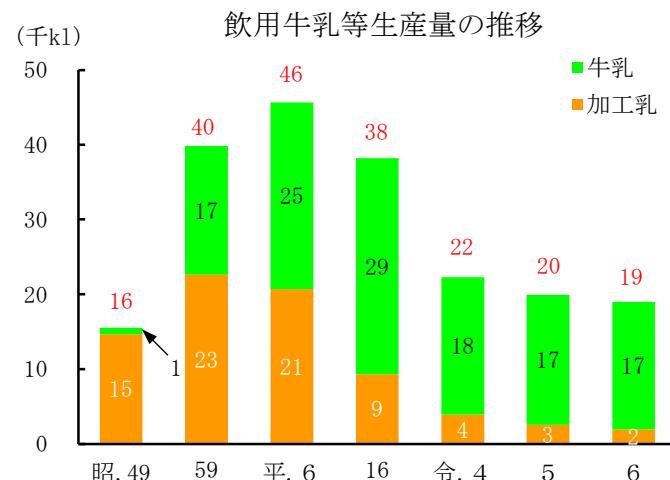
単位:t

区分	昭. 49	59	平. 6	16	令. 4	5	6
生乳生産量	4,356	25,219	36,585	38,899	21,716	20,011	18,971
用途別処理量	4,356	25,520	37,050	37,708	22,304	20,940	20,088
牛乳等向	3,856	25,049	34,947	36,065	22,069	20,798	19,964
乳製品向	500	403	2,029	15,251	12	12	21
その他	—	68	74	118	223	130	103

資料：農林水産省大臣官房統計部『牛乳乳製品統計調査』、注：用途別処理量は、県外からの移入量も含む。

## 2 飲用牛乳等生産量 － 近年は牛乳の割合が高く推移 －

令和6年の沖縄県の飲用牛乳等の生産量は1万9,000k1で、前年に比べ942k1(4.7%)減少となっています。また、種類別では牛乳は1万7,032k1で、前年に比べ362k1(2.1%)減少し、加工乳は1,968k1で、前年に比べ580k1(22.8%)減少となっています。さらに、牛乳と加工乳の割合でみると昭和49年は、牛乳が5%、加工乳が95%と加工乳の割合が高かったのですが、令和6年では、牛乳が90%、加工乳が10%と牛乳の割合が高くなっています。



### 【飲用牛乳等生産量の推移】

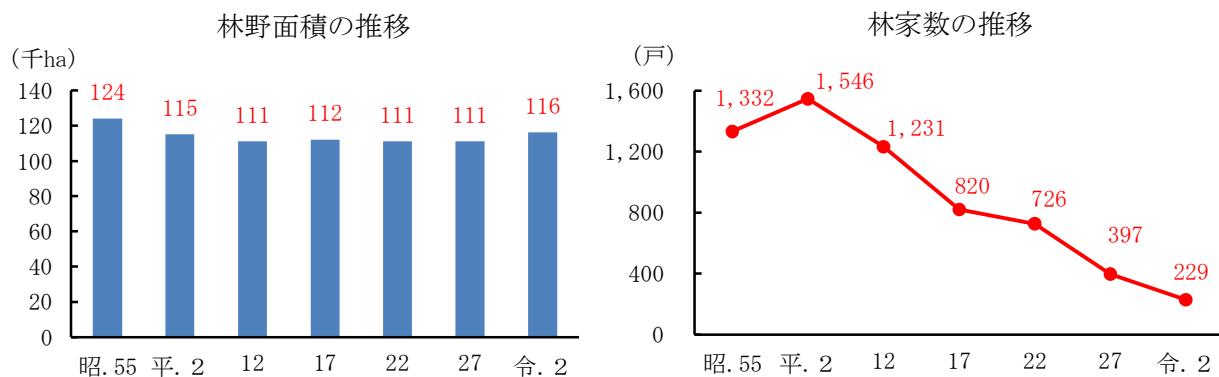
単位:k1

区分	昭. 49	59	平. 6	16	令. 4	5	6
飲用牛乳等計	15,524	39,838	45,670	38,205	22,319	19,942	19,000
牛 乳	830	17,203	24,971	28,889	18,400	17,394	17,032
加工乳	14,694	22,635	20,699	9,316	3,919	2,548	1,968

資料：農林水産省大臣官房統計部『牛乳乳製品統計調査』

# 14 林野面積・林家数及び林業産出額

## 1 林野面積及び林家数 － 平成27年に比べ林野面積は増加、林家数は減少 －



令和2年の林野面積は11万6千haで、平成27年に比べ5千ha(5%)増加となっています。  
また、林家数は229戸で、平成27年に比べ168戸(42%)減少となっています。

### 【林野面積及び林家数の推移】

単位：千ha、戸

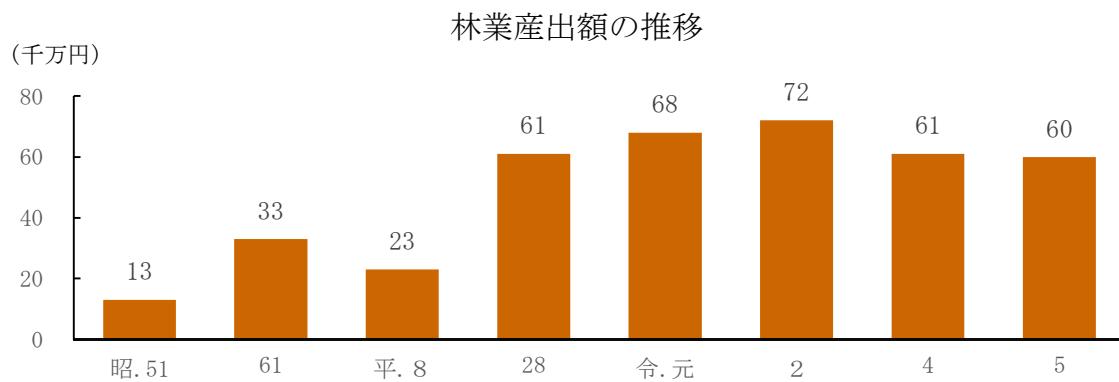
区分	昭. 55	平. 2	12	17	22	27	令. 2
林野面積	124	115	111	112	111	111	116
林家数	1,332	1,546	1,231	820	726	397	229

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

注：林家とは、調査期日現在の保有山林面積が1ha以上ある世帯をいいます。

## 2 林業産出額 － 令和5年は6億円で前年より1千万円減少 －

令和5年の林業産出額は6億円で、前年に比べ1千万円(1.6%)減少しました。  
これは、林業産出額の約95%を占める栽培きのこ類が減少したためです。



### 【林業産出額の推移】

単位：千万円

区分	昭. 51	61	平. 8	28	令. 元	2	4	5
林業産出額	13	33	23	61	68	72	61	60
木 材	12	12	11	4	2	2	x	2
薪 炭	1	7	5	2	1	1	1	1
栽培きのこ類	0	13	7	55	64	69	58	57

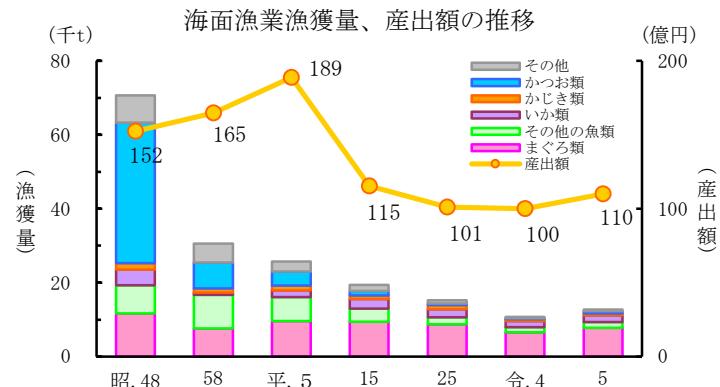
資料：農林水産省大臣官房統計部『林業産出額』

# 15 海面漁業生産量及び海面漁業産出額

## 1 海面漁業 － 漁獲量の約6割がまぐろ類 －

令和5年の漁獲量は1万2,418tで、前年に比べ1,729t(16%)増加しました。また、産出額は110億2,700万円で前年に比べ10億600万円(10.0%)増加しました。

昭和48年の漁獲量はかつお類が5割を占めていましたが、平成5年以降、まぐろ類の割合が大きくなり、平成20年頃からは6割を占めています。



### 【主要魚種別漁獲量及び産出額の推移】

単位: t、百万円

年次	漁獲量	漁獲量					産出額
		まぐろ類	かじき類	かつお類	その他の魚類	いか類	
昭. 48	70,678	11,712	1,698	38,048	7,635	4,229	15,234
58	30,536	7,626	1,152	6,991	9,060	576	16,480
平. 5	25,681	9,518	1,290	3,874	6,578	1,755	18,885
15	19,414	9,352	892	1,150	3,591	2,676	11,542
25	15,294	8,746	1,092	473	1,850	2,207	10,093
令. 4	10,689	6,549	525	250	1,393	1,635	10,021
5	12,418	7,769	583	275	1,544	1,786	11,027

資料: 農林水産省大臣官房統計部『海面漁業生産統計調査』、『漁業産出額』

## 2 海面養殖業 － 日本一のもずくの産地 －

令和5年の収穫量は2万1,728tで、前年に比べ4,863t(29%)増加となっています。また、産出額は79億3,600万円で前年に比べ7億2,600万円(10.1%)増加となっています。品目別では、もずくの収穫量は2万84tで、全国シェアはほぼ100%となっています。くるまえびの収穫量は469tで、全国シェアは35%となっています。

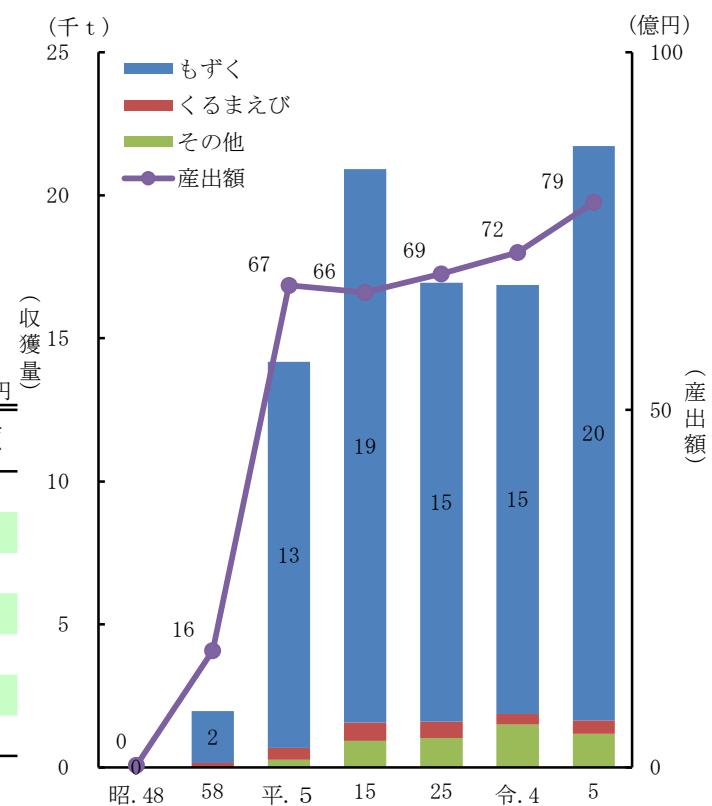
### 【養殖魚種別漁獲量及び産出額の推移】

単位: t、百万円

年次	収穫量	収穫量		産出額
		くるまえび	もずく類	
昭. 48	11	2	—	33
58	1,976	154	1,816	1,633
平. 5	14,184	425	13,491	6,742
15	20,909	645	19,336	6,640
25	16,934	560	15,336	6,908
令. 4	16,865	372	15,172	7,210
5	21,728	469	20,084	7,936

資料: 農林水産省大臣官房統計部『海面漁業生産統計調査』、『漁業産出額』

### 海面養殖業収穫量、産出額の推移

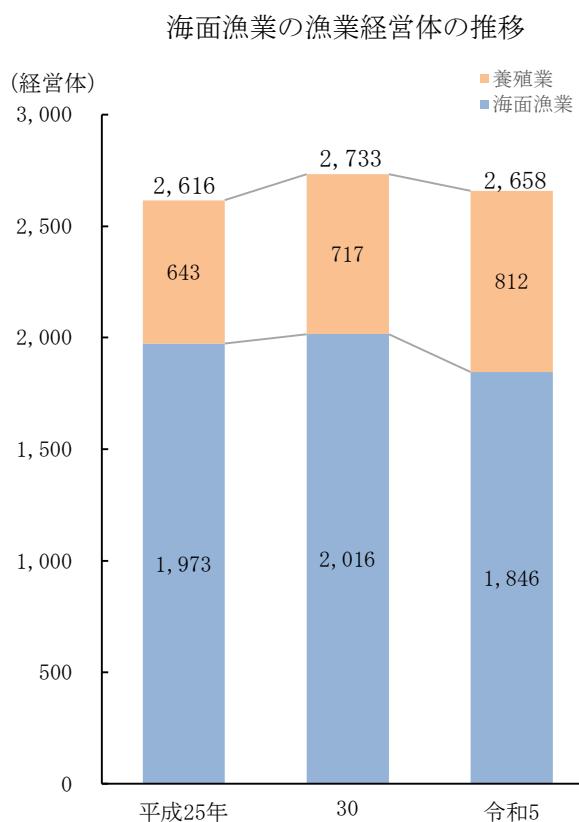
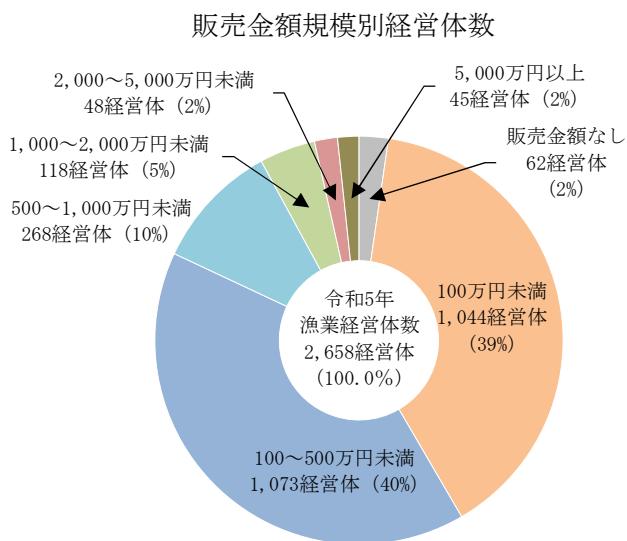


# 16 海面漁業経営体数及び漁船隻数の推移

## 1 海面漁業経営体数 － 平成30年に比べ養殖業は増加、海面漁業は減少 －

令和5年の海面漁業経営体数は2,658経営体で、平成30年に比べ75経営体（2.7%）減少しました。

これは、養殖業経営体が95経営体（13.2%）増加したものの、海面漁業経営体が170経営体（8.4%）減少したことによります。

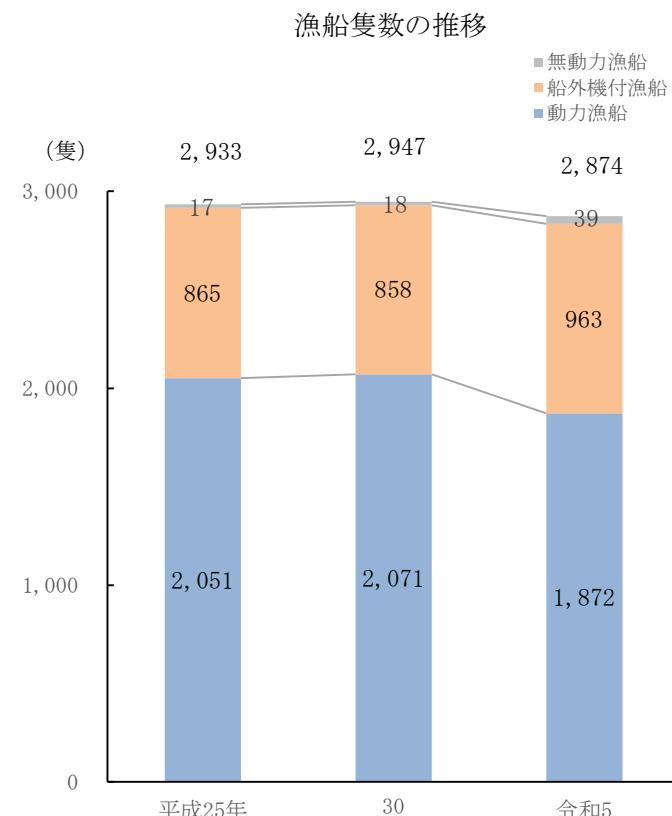
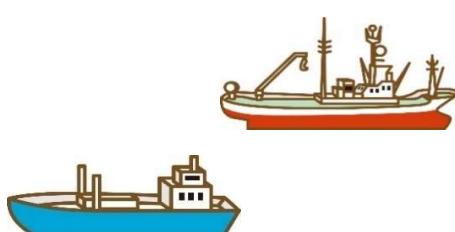


資料：農林水産省大臣官房統計部『漁業センサス』

## 2 漁船隻数の推移 － 平成30年に比べ減少 －

漁業経営体が調査期日前1年間に使用した漁船のうち、調査期日現在で保有している漁船の総隻数は、令和5年で2,874隻で、平成30年に比べ73隻（2.5%）減少しました。

また、漁船隻数を種類別にみると、無動力漁船が39隻、船外機付漁船が963隻、動力漁船が1,872隻で、平成30年に比べ、無動力漁船が21隻、船外機付漁船が105隻、それぞれ増加し、動力漁船が199隻減少しました。

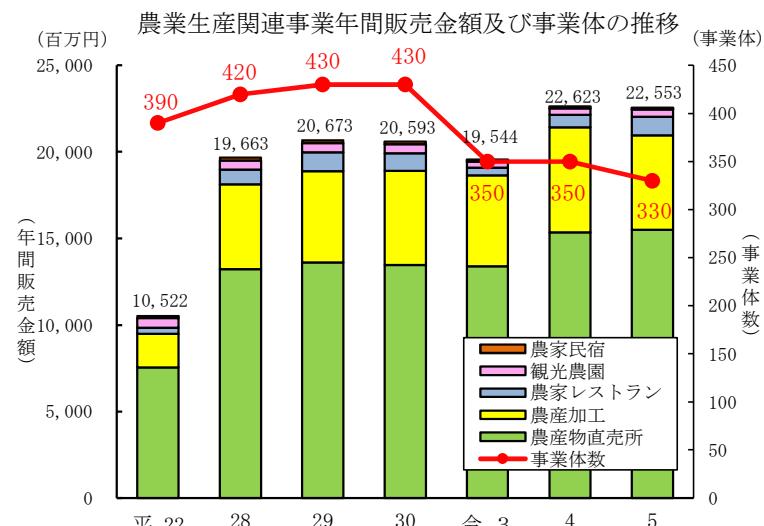


資料：農林水産省大臣官房統計部『漁業センサス』

# 17 農業・農村及び漁業・漁村の6次産業化

## 1 農業生産関連事業 - 年間販売金額は近年増加傾向 -

令和5年度の農業生産関連事業の年間販売金額は、225億5,300万円で、前年度に比べ0.3%減少となっています。業態別では、農産物直売所は154億9,700万円で1.0%増加、農産加工は54億5,300万円で10.2%減少しました。年間販売金額に占める業態別の割合では、農産物直売所が最も高く全体の69%を占め、次位の農産加工と合わせると全体の93%を占めています。



### 【農業生産関連事業年間販売金額及び事業体数の推移】

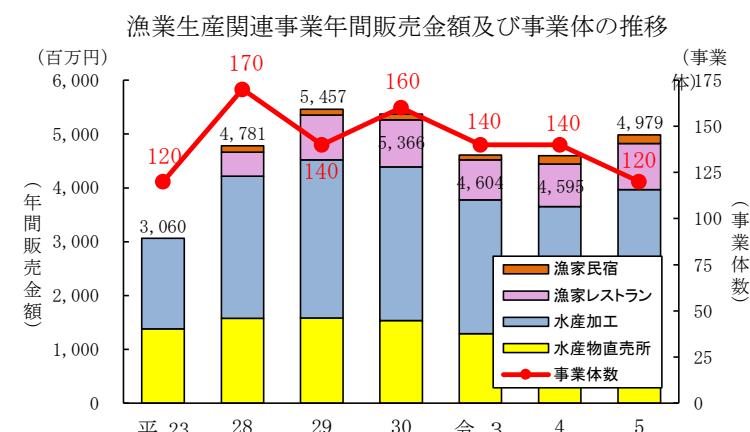
単位：百万円

区分	平. 22	28	29	30	令. 3	4	5
事業体数	390	420	430	430	350	350	330
年間販売金額(100万円)	10,522	19,663	20,673	20,593	19,544	22,623	22,553
農産加工	1,962	4,914	5,280	5,438	5,248	6,072	5,453
農産物直売所	7,537	13,221	13,609	13,463	13,397	15,348	15,497
観光農園	579	529	540	512	341	382	421
農家民宿	112	160	160	152	104	103	100
農家レストラン	332	839	1,084	1,027	454	717	1,081

資料：農林水産省大臣官房統計部『6次産業化総合調査』

## 2 漁業生産関連事業 - 年間販売金額は近年横ばい傾向 -

令和5年度の漁業生産関連事業の年間販売金額は、49億7,900万円で、前年度に比べ8.4%増加となっています。業態別では、水産加工は27億2,400万円で1.3%増加、水産物直売所は12億3,900万円で28.5%増加となっています。年間販売金額の業態別割合では、水産加工が最も高く全体の55%を占め、次位の水産物直売所と合わせると全体の80%を占めています。



### 【漁業生産関連事業年間販売金額及び事業体数の推移】

単位：百万円

区分	平. 23	28	29	30	令. 3	4	5
事業体数	120	170	140	160	140	140	120
年間販売金額(100万円)	3,060	4,781	5,457	5,366	4,604	4,595	4,979
水産加工	1,678	2,639	2,935	2,856	2,486	2,689	2,724
水産物直売所	1,382	1,577	1,579	1,532	1,294	964	1,239
漁家民宿	...	117	107	110	89	153	164
漁家レストラン	...	448	836	868	735	789	851

資料：農林水産省大臣官房統計部『6次産業化総合調査』

※平成27年には、「漁家民宿」、「漁家レストラン」の調査項目を追加。

# 沖縄の農林水産業主要指標

項目	単位	数値	全国からみた沖縄の地位		時点	資料出所		
			シェア(%)	順位				
土地	耕地面積	ha	35,900	0.84	35	令和6年7月15日	耕地面積調査	
	田	〃	751	0.03	46	〃	〃	
	畠	〃	35,200	1.80	12	〃	〃	
	林野面積	〃	115,602	0.47	42	令和2年2月1日	農林業センサス	
人口と労働力	総農家数	戸	14,747	0.84	46	令和2年2月1日	農林業センサス	
	販売農家数	〃	10,674	1.04	41	〃	〃	
	農業経営体数	経営体	11,310	1.05	42	〃	〃	
	個人経営体	〃	10,875	1.05	42	〃	〃	
	団体経営体	〃	435	1.13	39	〃	〃	
	林業経営体数	経営体	8	0.02	47	〃	〃	
	漁業経営体数	〃	2,658	4.05	6	令和5年11月1日	漁業センサス	
	農業従事者数(個人経営体)	人	18,207	0.73	45	令和2年2月1日	農林業センサス	
	基幹的農業従事者数(個人経営体)	〃	13,288	0.97	40	〃	〃	
	漁業就業者数	〃	3,268	2.69	13	令和5年11月1日	漁業センサス	
	自家漁業のみに従事	〃	2,377	3.47	11	〃	〃	
	漁業雇われ	〃	828	1.85	17	〃	〃	
農作物の作付(収穫)面積と収穫(出荷)量	水稻	作付面積 収穫量	ha t	599 1,950	0.04 0.03	46	令和6年産	水稻調査
	1)野菜	作付面積 収穫量	ha t	1,825 34,725	0.42 0.27	45 46	令和4年産	野菜調査
	パインアップル	収穫面積 収穫量	ha t	327 7,100	100.00 100.00	1	令和6年産	果樹調査
	さとうきび	収穫面積 収穫量	ha t	13,500 845,200	58.44 60.16	1	〃	甘味資源作物調査
	きく	作付面積 出荷量	ha 千本	561 177,300	14.68 15.96	2	〃	花き調査
	乳用牛	頭	3,680	0.28	33	令和6年2月1日	畜産統計調査	
	肉用牛	〃	79,000	2.96	9	〃	〃	
	豚	〃	184,500	2.10	14	〃	〃	
	採卵鶏(種鶏を除く)	千羽	1,431	0.85	29	〃	〃	

1)野菜調査は全国統一で調査する品目が対象で、ゴーヤー、ヘチマ等は含まれていません。

# 沖縄の農林水産業主要指標 (つづき)

項目	単位	数値	全国からみた 沖縄の地位		時点	資料出所	
			シェア (%)	順位			
農業産出額と生産農業所得	農業産出額	億円	879	0.92	35	令和5年	生産農業所得統計
	米	〃	4	0.03	46	〃	〃
	野菜	〃	136	0.59	39	〃	〃
	果実	〃	62	0.65	35	〃	〃
	パインアップル	〃	20	100.00	1	〃	〃
	工芸農作物	〃	185	12.61	3	〃	〃
	さとうきび	〃	166	54.61	1	〃	〃
	花き	〃	82	2.33	14	〃	〃
	畜産	〃	393	1.04	27	〃	〃
	肉用牛	〃	160	2.05	14	〃	〃
	豚	〃	120	1.65	20	〃	〃
	鶏	〃	77	0.61	33	〃	〃
	生産農業所得	〃	273	0.82	35	〃	〃
農業経営収益体支	農家粗収益	千円	5,164	41.38	…	令和5年	農業経営統計調査
	農業経営費	〃	4,559	40.21	…	〃	〃
	農業所得	〃	605	52.98	…	〃	〃
林業産出額	林業産出額	千万円	60	0.13	44	令和5年	林業産出額
	栽培きのこ類生産	〃	57	0.26	38	〃	〃
海面漁業生産量	海面漁業漁獲量	t	12,418	0.42	31	令和5年	海面漁業生産統計調査
	海面養殖業収穫量	〃	21,728	2.55	14	〃	〃
	合計	〃	34,146	0.90	…	〃	〃
海面漁業産出額	海面漁業産出額	百万円	11,027	1.16	23	令和5年	漁業産出額
	海面養殖業産出額	〃	7,936	1.38	18	〃	〃
	合計	〃	18,963	1.24	23	〃	〃
漁船隻数	隻	隻	2,874	2.63	15	令和5年11月1日	漁業センサス

注：農業経営（1経営体当たり）のシェア（%）については、全国平均の数値に対する比較です。

# 統計データを見るなら

## 《各種ホームページの紹介》

### 農林水産省

#### 【農林水産省 統計情報】

農林水産省が実施している統計調査結果が閲覧できます。

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>

#### 【地域の農業を見て・知って・活かすD B】

地域農業の現状をグラフや地図で見える化することや、国勢調査や行政情報と組み合わせて分析することができます。

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku\\_data/index.html](https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/index.html)

### 沖縄総合事務局

#### 【沖縄総合事務局 統計情報】

農林水産省が実施している統計調査結果のうち、沖縄の農林水産業に関する統計調査結果を掲載しています。

<http://www.ogb.go.jp/nousui/toukei/>

### e-Stat

政府統計の総合窓口

#### 統計で見る日本

e-Statは、日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイトです



#### 【e-Stat 政府統計の総合窓口】

農林水産省を含む、政府が実施している統計調査の総合窓口です。

<http://www.e-stat.go.jp>

ただし、ホームページ上の情報は予告なしに内容を変更又は削除する場合があります。あらかじめ御了承ください。

## 統計データでみる沖縄の農林水産業

令和7年10月 発行

編集・発行者 内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち2丁目1番1号

TEL 098-866-0031(代) 内線 83404